

平成29年度 自己評価計画書

石川県立松任高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 授業規律の維持に努め、落ち着いた学習環境のもと、確かな学力を身に付けさせ、進路実現を支援する。	① すべての生徒が授業を受ける基本的態度を身につけられるように指導する。	教務課 各教科 各学年	昨年度はC＋Dの合計が全体の31.3%であった。今年度も授業での集中度や態度（私語や居眠り）について指導が必要である。	【成果指標】 生徒は私語や居眠りをせず、常に授業に集中している。	A 私語や居眠りをせず授業に集中し、いつでも発言ができるよう積極的に授業に参加している。 B 私語や居眠りをせず、集中して授業を受けている。 C 集中力に欠け、私語や居眠りをすることがある。 D 集中することができず、私語や居眠りをよくする。	C、Dの割合が10%を超えた場合、各教科・学年で指導法を見直す。	7月と12月に生徒を対象に調査を行う。
	② ICT活用、A・L導入等授業の工夫、授業公開・校内授業研究会の充実等と、授業力の向上を図り、生徒の理解を深める。	教務課 各教科	昨年度はA＋Bの合計が66.2%であった。C、D評価の生徒の引き上げとA評価の生徒の割合を高める必要がある。	【満足度指標】 授業がわかりやすく、理解でき、学力が高まったと感じている生徒が増加している。	A 授業がよく理解でき、学力が高まった。 B 授業がある程度理解でき、少し学力が高まった。 C 少し理解できないところがあるが、何とか授業についていけている。 D 授業が理解できず、授業についていけなかった。	C、Dの割合が10%を超えた場合、各教科・学年で指導法を見直す。	7月と12月に生徒を対象に調査を行う。
	③ 家庭での学習習慣の確立を図り、家庭学習時間の増加を目指す。	教務課 各教科 各学年	家庭学習が習慣化されていない現状が見られる。生活習慣を見直し、家庭学習の大切さを理解させる必要がある。	【成果指標】 全員が家庭学習の習慣を身に付け、家庭学習時間が平均1日1時間を超えている生徒が60%以上である。	平均1日1時間を超えている生徒の割合が A 60%以上である。 B 50%以上60%未満である。 C 40%以上50%未満である。 D 40%未満である。	CまたはDの場合、あるいは0時間の生徒がいる場合は各教科・学年で指導法を改善する。	年間5回実施している家庭学習時間調査により評価する。
	④ 図書だよりの発行やホームページの掲載記事で、読書活動を啓発するとともに、図書委員会活動を活発にして、図書委員による図書館づくりを目指す。	生徒会課 図書館	授業での図書館の使用頻度は増えたが、その後の生徒の来館及び貸し出し増にまで繋がらなかった。	【成果指標】 年間の図書室利用者数として延べ6,000名以上を維持する。	年間の図書室利用者数が A 6,000名以上である。 B 5,500名以上6,000名未満である。 C 5,000名以上5,500名未満である。 D 5,000名未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	利用者を月別に集計し、年度末に最終集計を行う。
	⑤ 3年生の進学希望者に対しガイダンス機能を高め、個々に応じた指導や支援体制を強化する。	進路指導課 3学年	昨年度は90.9%の生徒が第1志望校に進学した。今年度も生徒が進学したい学校に合格できるよう、担任と連携して取り組む。	【満足度指標】 入試結果に満足である生徒が90%以上である。	3年生進学希望者で自分の入試結果に満足している生徒が A 90%以上である。 B 80%以上90%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	あくまで100%を目標に年度末まで支援する。
	⑥ 3年生の就職希望者全員の内定を実現するとともに、内定先の満足率100%を目指す。	進路指導課 3学年	昨年度、学校紹介による内定率100%を達成した。「内定先にはほぼ満足」以上は88%であった。今年度も企業とのマッチングを重視し、生徒の満足度向上をはかる。	【満足度指標】 自分の内定先にほぼ満足である生徒が90%以上である。	3年生就職希望者で自分の内定先に満足している生徒が A 90%である。 B 80%以上90%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	あくまで100%を目標に年度末まで支援する。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2: 挨拶の励行、端正な服装容儀、遅刻・欠席の減少等、のぞましい生活習慣を確立させ、心豊かで安心感のある学校づくりを促進する。	① 職員全員で登校指導時に遅刻防止を呼びかけるとともに、定期的に集会で啓発する。挨拶運動に合わせて、遅刻防止を呼びかける。	生活指導課 各学年 相談室	昨年度は453回の遅刻があり、生徒の意識も薄れてきている。学年によって、同じ生徒が遅刻を繰り返す場合と複数の生徒が遅刻している場合がある。	【成果指標】 職員は組織的な指導を行い、生徒に時間を守る習慣を身に付けさせる。	月ごとおよび年間の遅刻回数0の生徒の割合が A 90%以上である。 B 85%以上90%未満である。 C 80%以上85%未満である。 D 80%未満である。	CまたはDの場合は、指導法を見直す。	遅刻者を月別に集計し、年度末に最終集計を行う。
	② 職員は学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見・未然防止に取り組んでいる。	生活指導課 各学年	いじめの早期発見、早期対応に努めるため、個人面談やいじめアンケートを行っている。	【成果指標】 職員はいじめ防止に取り組み、迅速に対応する。	職員はいじめの早期発見に努めるとともに、いじめを察知した場合には職員間で必要な情報を共有し、迅速に対応できていると評価する職員の割合が A 100%以上である。 B 90%以上100%未満である。 C 80%以上90%未満である。 D 80%未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	7月と12月に職員を対象に調査を行う。
	③ 環境委員を中心にゴミの分別やゴミのポイ捨て禁止等の活動を実施して、生徒全体に対して、環境整備・エコ意識を向上させる。	保健相談課	昨年度のアンケート結果から、エコ活動に日常的に取り組んでいる生徒が50.1%であった。	【成果指標】 生徒に対して、環境整備・エコ活動に関する教育ならびに啓発活動を行う。	自分はエコ活動に日常的に取り組んでいると評価する生徒の割合が A 70%以上である。 B 60%以上70%未満である。 C 50%以上60%未満である。 D 50%未満である。	Dの場合、意識向上のためエコに関する講演会等の行事を行う。	7月、12月に生徒を対象に調査を行う。
	④ 生徒が端正な服装、容疑で学校生活に臨むことができるようにする。	各学年 総務課 生活指導課	服装を端正に整えていない生徒も見受けられる。	【成果指標】 端正な服装、容疑で学校生活に臨んでいると自信を持っている生徒が60パーセント以上である。	自分は服装、容儀を端正に整えて学校生活に臨んでいると思う生徒の割合が A 70%以上である。 B 60%以上70%未満である。 C 50%以上60%未満である。 D 60%未満である。	CまたはDの場合、指導法を見直す。	7月と12月に生徒を対象に調査を行う。
	⑤ 職員が緊密に連携して、問題を抱える生徒の早期発見と支援及び問題行動の未然防止ができるようにする。	相談室	昨年度は生徒の状況を全職員で把握し、学年と教育相談が連携して支援する体制作りを行った。A+Bが88.4%だが、全ての生徒が安心できる学校にするためには問題行動をチームで解決する体制づくりが必要である。	【成果指標】 職員間の連携を密にして、生徒ひとり一人の理解を深め、チームで早期支援ができる。	職員間で気になる生徒の情報を共有し、関係機関と連携し、チームで生徒の支援ができていると評価する職員の割合が A 90%以上である。 B 80%以上90%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	Dの場合、職員間の連携のあり方を再検討する。	7月と12月に生徒を対象に調査を行う。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 体力の向上に努め、部活動・生徒会活動の活性化を推進し、心身ともに健やかな生徒を育成する。	① 部活動加入を促進すると共に継続して部活動に参加することの大切さを理解させる。	生徒会課 各学年	昨年度最初は高い加入率であったが、途中退部する生徒がおり、10月では8割を切った。	【成果指標】 部活動への加入を促し、継続して活動する生徒をの割合を高める。	継続して部活動をしている生徒の割合が A 90%以上である。 B 85%以上90%未満である。 C 80%以上85%未満である。 D 80%未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	4月と10月に集計する。
	② 朝の挨拶運動に参加する生徒を増やすために、生徒会が率先して玄関に立ち、声かけをする。	生徒会課 生活指導課 各学年	自分から挨拶ができない生徒が多いので、意識付けをすることを目指す。	【成果指標】 生徒会、部活動、PTAと協力し、年6回の挨拶運動を行い、自分から挨拶する機会を増やす。	挨拶運動に参加する生徒の割合が A 30%以上である。 B 25%以上30%未満である。 C 20%以上25%未満である。 D 20%未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	7月と12月に集計する。
	③ 春の外周走（男子2km女子1.5km）のタイムを測定後、全体のベースアップを目指したサーキットトレーニングを体育の導入時に実施し、心肺機能と全身持久率の向上を目指す。	体育科 各学年	運動を行うことが好きな生徒が多く、積極的に体育に取り組む姿勢が見られるが、自分の体力・運動能力について理解している生徒が少ない。	【成果指標】 秋に再度測定し、80%以上の生徒のタイム向上を目指す。	春と秋のタイムを比較して向上した生徒が A 80%以上である。 B 70%以上80%未満である。 C 60%以上70%未満である。 D 60%未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	4月と10月にタイムを測定する。
4 学校の取り組みや生徒の活動への理解を深めるため、広報活動の充実を図り、保護者・地域から信頼される学校づくりに努める。	① 学年や各課からの通信の発行やホームページの更新を随時行い、学校の教育活動を積極的に発信する。	各学年 各課 各部 情報管理室	定期的な通信の発行やホームページの更新をしているが、より細かな発信が必要である。	【満足度指標】 保護者に向けたメール配信やホームページの情報の更新を随時行い、学校の取り組みに対して理解を深める。	広報活動（各種通信、メール配信、HP等）が充実しており学校の取り組みに対して理解が深まったと答える保護者の割合が A 80%以上である B 70%以上80%未満である C 60%以上70%未満である D 60%未満である	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	7月と12月に集計する。
	② 生徒会、各種委員会、学年、部活動での地域交流や貢献活動への参加の機会を増やす。	生徒会課 総務課 各学年	学年や部活動単位で清掃活動、交通安全指導、ボランティア活動、地域振興行事等に積極的に参加する生徒もいるが、昨年度よりさらに多くの参加を目指す。	【成果指標】 生徒会、各種委員会、各部活動を通して、外部（地域）の活動に平均生徒1人1回以上参加する。	外部（地域）の活動に参加した生徒の延べ人数が A 600人以上である。 B 500人以上600人未満である。 C 400人以上500人未満である。 D 500人未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	9月と2月に集計する。

